

平成30年 第12回 教育委員会定例会議事録

招集日時 平成30年10月24日（水曜日）午後1時30分時開会／午後2時55分閉会
招集場所 加賀市民会館3階 15会議室
教育長 山下修平
出席委員 篠原隆一、山下裕嗣、疎幹子、佐野明子
会議列席者 梶谷事務局長、越中谷次長兼学校指導課長、山本教育庶務課長、宮下生涯学習課長、新家中央図書館長、
柏田山中図書館長、宮本教育総合支援センター所長、中田スポーツ課長、奥村マラソン開催推進室長、
山下教育庶務課長補佐

平成30年第12回教育委員会定例会開会宣言

挨拶

○山下教育長 この9月、10月は学校でもいろんな行事がありまして、教育委員の皆様方には何回も学校に足を運んでいただき本当にお疲れ様でした。先週も教委連の研究大会ということで穴水の方まで行っていただきました。ありがとうございます。来年はあの大会が加賀市であるということで、今度はお世話する立場になるかと思いますが、またよろしく願いいたします。それから計画訪問も9月に入ってからいろいろありまして、あと残り5校となりましたけど、明日、来週とまたよろしく願いいたします。それから加賀市の売りであるプログラミング教育ですけど、プログラミング教育に関してはいろいろな研修会があり、子ども達が参加する研修等もあるんですけど、今日も午前中に庄小学校でプログラミング教育の先にある社会を知るための講演会というものがありません。みんなのコードの利根川さん、そしてそのお知り合いのイギリス人のラムジーさんという方が講師を務めてくださって、これから先どんなふうに変っていくかというようなお話を、ゲームをしながら、クイズをしながらということで非常に楽しく1時間以上講演をしてくださいました。子ども達も非常に興味を持っていろんな質問をしたりして本当に積極的な様子でした。その中で最後にいろんなクイズをしたんですけど、子ども達一人一人全員に黒い線が入ったカードを渡すんですね。それが何かといたら、いわゆるQRコードみたいなもので、A B C Dと書いてあって、それを答えがAだと思ったらAを上に向けて出します。そして先生がスマホで写真を撮って、その撮った写真が全部パソコンの画面上に写されて、そこでパッと一瞬にして正解が出るというようなことをやっていたけれど、教育もこれを見ているとどんどん変わっていくなど。一人一人の集計をどうのこうのではなくて、瞬時にして集計ができて答えが出るということで、すごいなと思いました。ちょっと段々ついていけなくなるなということを感じながら見ていました。この講習会は来週の火曜日に錦城小学校と河南小学校でも、また同じ講習会がありますので、もし興味がありましたら行ってみたら面白いんじゃないかなと思います。

それでは議件に入っていきたいと思いますが、今日は審議事項はございません。報告事項とその他ということでよろしく願いいたします。それではさっそく報告事項に入っていきたいと思います。報告第49号、平成30年度指定管理者選定会の結果について山本課長お願いいたします。

● 報告第49号 平成30年度指定管理者選定会の結果について
山本課長 資料に基づき説明

○山下教育長 平成30年度指定管理者選定会の結果についてということで、大きく分けて公募する施設と非公募の施設と2つあるんですけど、加賀市文化会館は期間が満了したということで、先日指定管理者選定会を行いまして、引き続き株式会社コーワが第一番目の優先交渉権者になったということです。これについては12月議会において指定する議案を提出するというところでありますし、あとの非公募に関しては今ご覧になった通りであります。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 お願いします。確認ですけれど、今見ましたら指定管理者公募者については従来の公募者と変わらないような感じがいたしますが、それでよろしいですね。

○山本課長 はい。上段の文化会館については、公募をしておりますので結果的に同じ団体ということになりますし、下段の非公募については今までの5年間は記載の団体が管理をしまして、その実績、施設の設置経費とかいうことを踏まえる中で引き続きということにしたものです。すみません、体育施設に限っては17ある施設を2つのグループにわけて管理をしておりました。今記載してありますスポーツ振興事業団と、もうひとつは加賀市総合サービスでその2つの団体が施設を2つに分けて管理しておりましたが、今後の5年間については垣根を取っ払いまして、このスポーツ振興事業団が一体的に管理することでより利用者にとっても使いやすい運営ができるだろうと、そういった判断があったものです。

○篠原委員 ありがとうございます。

○山下教育長 他、ございませんか。この件はこれでよろしいでしょうか。それでは次にいきます。報告第50号 平成30年度本川弘一科学奨励賞の受賞者について越中谷次長お願いいたします。

● 報告第50号 平成30年度本川弘一科学奨励賞の受賞者について
越中谷次長 資料に基づき説明

○山下教育長 平成30年度本川弘一科学奨励賞の受賞者について、この件について何かご意見、ご質問ございませんか。補足ですが、1番上の動橋小学校の井出さんは昨年が続いて、昨年は「あつまれダンゴムシ その2」でした。今年はそこからまたずっと継続して研究をしたということで、今年はその3だったんですけど、引き続きこの研究が非常に素晴らしいということで2年連続の表彰となります。何かご質問等ありますか。それではこの表彰式を10月31日16時から関係者を集めて執り行う予定をしております。次にいきます。報告第51号、本川達雄先生の出前授業の実施について越中谷次長お願いいたします。

● 報告第51号 本川達雄先生の出前授業の実施について
越中谷次長 資料に基づき説明

○山下教育長 本川達雄先生の出前授業ということで、「生きものは円柱形」という小学5年生の国語の教科書に載っているその授業を行うんですけど、いろんな小道具を使いながら、歌を交えて非常に楽しい授業でありますので、皆さんも興味があったらどこかの学校で見ただければというふうに思います。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○越中谷次長 はい、補足ということで、今の話でどの学校で何時から行うということについてまたお伝えいたしますので、もしご都合が合えばご覧ください。

○山下教育長 ご質問等ございませんね。それでは続いて報告第52号、加賀市立小中学校における教員の勤務時間集計結果について越中谷次長お願いいたします。

● 報告第52号 加賀市立小中学校における教員の勤務時間集計結果について
越中谷次長 資料に基づき説明

○山下教育長 教職員の勤務時間集計結果の7月から9月分です。県は3年後に80時間超えをゼロにするという大きな目標を掲げてやっているわけですが、ご覧のとおり県全体も市もそれをクリアするのは至難の業かなということが考えられます。それぞれの市町で抜本的なことを考えていかないとなかなか難しいのかなと感じているところであります。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○山下委員 はい。今朝の新聞にタイムカード等導入についての記事が出ていました。加賀市はまだ導入の予定はないということでしたけれど、勤務時間の把握の方法を、自己申告とか自主記入とか、そういう方法はどういうふうにご報告されているのか教えていただければと思います。

○越中谷次長 はい。教員は学校に着いたときに自分のパソコンを立ち上げるんですが、1人1台ありますので、パソコンを立ち上げる時間が開始時間、そして勤務アウトはパソコンの電源を落とした時間が勤務アウトとなります。ただ交通街頭指導等で朝に横断歩道に立ったりとか、そういうときはまたその時間から開始ということで。ただタイムカードはなく、あくまでも自己申告で入力ということにはなりません。タイムカードの方も導入を検討したんですけど、この報告というのは部活動とかタイムカードに入っていないものがありまして、結局2つ入力して二度手間ということで、加賀市の方での導入は今のところ見送っています。

○山下委員 ありがとうございます。

○山下教育長 他、ございませんか。

○篠原委員 はい。今年度4月以来、教育委員会でいろいろな事務補助員等々の教職員に対する勤務時間超えをなくす努力、いろんな手立てをなさってきたと思うんですけど、やはり相変わらずこれを見ると、そんなに急激に減っているという感じは見られませんね。特に夏休み中の8月を見ていたんですけど、8月はずっともっと減ってきているのかなと思ったんですけど、やはり先生方はこれほどお忙しいのかなということをつくづく感じました。そこで例えば市独自、あるいは県の中で教職員の事務軽減というような意味でいろんな人材を入れられたと思うんですけど、それに対する効果といますか、中間的な評価といますか、そういうものがもしありましたらお教えください。以上です。

○越中谷次長 はい。今年度は市負担の業務アシスタント、県も1名入っているんですが、そ

れと支援員の業務の拡大ということを行いました。それに対して各学校でどのような効果、成果があったかということで今アンケートを集約中です。まだ集約はできていないんですけれど、概ねすごく良好だと、どうしてもこのまま学校に継続して残してほしいという意見がたくさん届いています。国の方としてもこの業務アシスタントの拡充というのも今出てはいるので、来年度もう少し人数が増えることも考えられるかなと思います。また集約できたものについて後日別途でお渡しするというところでよろしいでしょうか。

○篠原委員 はい、結構です。結局業務アシスタントが有効に機能しているかどうかということが非常に大切な問題になってくると思います。具体的な職務といいますか、どこの範囲でどういうことで業務アシストをしているのかということを確認しておかないと、せっかく入れたけどなかなか実際は役立たなかったというようなことも起きてくる可能性があります。ですから業務アシスタントの職務の明確化をきちんと図っていただきたいと思っています。それから抜本的には定数改善というのが基本的な問題になってくると思います。これはもちろん市単位、県単位の問題ではなくて、国単位の問題ですけれども、それはいろんなところの要望書などですでに提出なさっていると思いますけれども、今予算の時期に入っていますので、併せて県教委と連携をとりながら要請活動を行っていただきたいと思っています。以上です。

○山下教育長 ありがとうございます。他、ございませんか。それでは続いて報告第 53 号、加賀市経営シミュレーション体験教室の開催結果について越中谷次長お願いいたします。

- 報告第 53 号 加賀市経営シミュレーション体験教室の開催結果について
越中谷次長 資料に基づき説明

○山下教育長 加賀市経営シミュレーション体験教室、これも先ほど言いましたプログラミング教育のひとつの事業ではありますが、架空のペットボトル飲料水の販売会社をネット上で経営するというものです。これは中学生が各学校から出てきてやったんですが、これの実践版が小学校でジュニアエコノミー教室というのがあって、実際に物を作って販売してその売上を収益としてもらえるという、これは青年会議所が主催をしてやったものですが、加賀市の小中学生はこの時代からいわゆる職業に関しての勉強を積極的に行っている、そういった事業があるということです。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。それでは続いて報告第 54 号、加賀ロボレーブ国際大会 2018 について越中谷次長お願いいたします。

- 報告第 54 号 加賀ロボレーブ国際大会 2018 について
越中谷次長 資料に基づき説明

○山下教育長 11 月の実質 10 日、11 日に行われるんですけど、ちなみに今年は海外からはアメリカ、台湾、中国、シンガポールの 4 カ国だということを聞いております。昨年から比べると海外のチームがちょっと減ったんですが、トータルのチーム数は昨年を上回っている感じになります。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。これも今年で 4 回目となりました。ちなみに 2020 年には加賀市でこの世界大会が行われる予定であります。続いて報告第 55

号、加賀市教育総合支援センターの業務評価について宮本センター所長お願いいたします。

- 報告第55号 加賀市教育総合支援センターの業務評価について
宮本センター所長 資料に基づき説明

○山下教育長 ありがとうございます。今年4月から加賀市教育総合支援センターとして発足し動いているわけですが、今の説明でもおわかりのように非常に組織的に機能的に運営されているなということがおわかりかと思えます。大きく2つに分けて教育開発室と教育支援相談室があり、開発室には先進教育と教職員研修ということで、特に加賀市の売りでありますプログラミング教育に関しましては、非常に多くのページを割いていろんな研修の説明をしていただきました。加賀市がすごいのは、色んな研修会を持っているのと、中核教職員養成をしっかりと行っていると。これが他のところではなかなかやっていないことなんですけど、これをきちんとしていると。そして学校教育以外にも公民館とかいろいろ地域で子ども達について、クラブ活動みたいなかたちで指導もされている。それからこの他にもこれは生涯学習課になりますが、地域ICTクラブということで、子ども達、地域の人、障がいを持つ方、みなさんを集めてプログラミング、ICTクラブをやっているということも付け加えておきます。

もうひとつは教育支援相談室、簡単にいえば旧育成センターですね。学校に行けない子ども達があそこへ行って勉強をするというようなところに、今年はさらにそこにスクールソーシャルワーカーが加わって、家庭訪問などをしながら組織的に行っているというような説明をしていただきました。

本当に上半期を終えてよくこれだけたくさんの研修会等をしっかりと行っていただいたなというのを感じております。これを見ながらご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

○篠原委員 お願いします。プログラミング教育に関して2つほどご質問させていただきたいと思えます。15ページの(2)プログラミング教育研修ということで、市内の教職員を対象に行っていたということで、主に夏季休業中を中心という話が先ほどありました。お聞きしたいのは、どのような先生方がこの研究の対象になっているのかということと、今後これが必修化されていきますので、教員はすべての先生がこのプログラミング研修を受けなければいけないんじゃないか、受けてこういうことを実際に授業の中で行わなければならないんじゃないかということが予想されます。それで今後計画的に割り当てて、全教職員に対してこのような研修会を行う計画があるのか、ないのかということも併せてお願いいたします。

○宮元所長 はい。夏季休業中に行ったプログラミング研修、この研修の対象者というのは、基本的には例えば学年で対象になっている Hour of Code の研修とか、そういうのが4年生だとすると4年生の先生、及びそれに関心がある先生ということで出ていただくようお願いして学校の方から出ていただいております。ここには入っておりませんが、スクラッチ研修というものについては平成29年度は23名、30年度は51名で合計74名、ロボレーブについては昨年は29名で、今年度は23名で合計52名、Hour of Code においては一昨年に38名、昨年は49名、今年度は15名という数値になっておりまして、今年度に限って言えば125、6名の先生方にこの研修会を受けていただいているという状況です。その先生方はほとんど4、5、6年生の該当学年の方々を中心に出ておりますが、中には級外の方とか、そういう方々にも出てい

ただいて、いろんなところでまた関わられるようにということで。こういうふうが増えてきておりますので、教職員の異動等もありまして、研修した人が異動することも考えられるわけですが、これからもこういう研修は継続しながら、夏季休業中を中心に研修をしながら、後半の2学期、3学期にかけて先生方が講師も含めて一緒に勉強できるようにしていくことによって職員への広がりも大きくなっていくんじゃないかなとふうに期待しているところです。これからも計画していきたいと思えます。

○篠原委員 補足して、今人数も教えていただきましたけれど、大切なことはこのプログラミングに関する基礎的な知識とかについて全教職員が理解していないとダメだと思うんです。でないといくら子ども達にプログラミング教育をするといっても実際のところはなかなか難しくなっていくんじゃないかなと思えます。そこで実態として例えば今年度はどの先生がされたかはもうおわかりだと思いますけれど、そのことについての把握で、将来的に全教職員に対してこのような研修を行う予定はありますか。

○越中谷次長 はい。2020年から小学校の方では新学習指導要領完全実施が行われて、そのときにプログラミング的思考を取り入れた授業というのが必須になってきます。今ここに出ているHour of Codeとかスクラッチという、これそのものをするということではありません。今年度は加賀市は全国に先駆けて先進的に行っているんで、実は2学期からこの授業が小学校4年生から中学校2年生まで年間5時間、総合的な学習の時間の中で組み込まれています。夏季休業中に、授業をするために例えば4年生の先生だと実際に自分が2学期にしなくてはいけないので、この研修に希望参加をしているということになります。このあと移行期から本格実施になるんですけど、子ども達はプログラミング的思考というものをこの教材を通して学ぶ、先生も当然教えることを学ぶんですが、最終的には授業の中で、例えば図工とか算数とか社会の中でプログラミング的思考を取り入れた授業を行っていくというのが最終目的になりますので、このあと2年間で全教職員を対象にするということは今のところは考えておりません。

○篠原委員 わかりました。危惧しているのは、総合的な学習の時間というところでこのようなプログラミング学習を行っていくということをお聞きしておりますけれども、学校の中でこの先生はできるけど、この先生はできないなんていうことが現実問題として起きてくる可能性がありますよね。そのばらつきが非常に心配なので、やはり加賀市としては意図的、計画的に先生方の研修を行っていただきたいというのが私の意見でございます。でない、学校間格差がでてきて、あるところではたくさんいるけど、あるところでは誰もいないということが起きますので、そういうところも併せて人事配置をしていただけたらいいと思えますけれど。すべての加賀市内にいる子ども達が同じようにプログラミングの学習ができるような体制をぜひ作っていただきたいと思っております。以上です。

それからもう1点です。20ページをご覧ください。同じプログラミングのところなんですけど、一番下のところに経過と課題がありまして、「かが日曜日IT教室については、」とあって、これはプログラミングクラブが無いところの子ども達に行っているとお聞きしておりますけれども、「参加者は少なく、学校での学習活動にプラスになる面は小さい。」という評価がなされているんですけど、これは例えばどれくらいの実態があったのか、参加者が少ないというのはほとんどいなかったのかどうかわかりませんが、そのようなことも併せて評価が気になったものですからお教えください。

- 宮本所長 すみません、今すぐにはわからないので調べてまいります。
- 篠原委員 よろしくお願ひします。例えば生涯学習課でもせつかく地域ICTクラブを作ったといっているし、もしかしたら私の認識はかが日曜IT教室と同じようなものかわかりませんが、そういう同じようなレベルのものがあちこち学校指導課、あるいは生涯学習課で重なっているならそれは無駄なことですので、それも併せて、やったけど誰もいなかったではいけないと思うので、やる限りには効果のあることをしないと意味がないことだと思います。そういうことのないように効果的な教室運営をやっていただきたいというのが要望です。詳しいことはまた次回お教えください。以上です。
- 越中谷次長 補足をさせていただきます。かが日曜IT教室については、小学校の子どもを対象に行ったもので、生涯学習の方は保護者とか地域の方も含まれているんですけど、加賀市の小学校の中でロボレーブクラブというのを持っている学校と持っていない学校とがあります。広くどの学校の子供達にもプログラミング教育の浸透ということで、ロボレーブクラブがない学校を対象に希望者を募って日曜日に行いました。詳しい参加人数はまた後ほどになりますが、実施してみたら参加人数がそう多くはなかったという報告になります。
- 篠原委員 ありがとうございます。
- 山下教育長 他、ございませんか。
- 疎委員 はい。20ページの4小学校のプログラミング教育の講習会は午前中というのは何時から何時くらいまでですか。
- 山下教育長 10月30日の錦城小学校は10時45分からです。河南小学校は2時からです。金明小学校は年が明けてからなのでまだわかりません。
- 篠原委員 見にいてもいいんですね。
- 山下教育長 はい、校長室に寄って見学に来ましたと言っただけであれば大丈夫です。他、ございませんか。先ほどからプログラミング教育の先生方ということですけど、一昨年からまずすべての学校から1名ずつということで研修をやってきましたので、どこの学校にもプログラミングについて詳しいことがわからないという学校はありません。そしてその先生方が学校へ帰って他の先生方に教えるというようなかたちをとっております。それからプログラミング教育中核教員養成、これはいわゆるその中のスペシャリスト養成というかたちで10名、その人たちは特別にタブレットを10台持っておりまして、子供達にも特別な授業もできますし、他の先生にもそういう指導ができるので、現在では加賀市の学校でこのプログラミング教育に関して何もわからないという学校はないはずですよ。すべての学校である程度のきちんとした指導はできるかなということを感じています。
- それから子供達に学校から離れたところで、先ほどありましたクラブとかIT教室とかいろんなことをやっていますけど、まず加賀市としたら全ての子供達、小学校4年生から中学校3年までがプログラミング教育を学んで、プログラミング的思考がまずどういふものかということを中心に掴むということと、もうひとつの狙いはそこからすごく興味を持った子供達、いわゆる底辺からさらに上に進んでいって、これをやりたいというような子を輩出できないかということでのいろんな教室をやっています。先日もさくらのイノベーション室を見たら、1人、2人ですけど休みの日に来てやっているんですね。それで話を聞いたらもうすごいことができるよ、この子は大物になりますよ、というようなことも言っていたので、こういうふう

にして、まず加賀市の全員の子ども達にプログラミング教育というのはどういうものなのかと底辺をきちんと教えて、そこからさらに興味を持ってその道に進みたいという子ども達を育てていくというのも、このプログラミング教育の大事なところかなと。決してプログラマーを育てるという意味ではないですけど、そこに興味を持ってさらに勉強していくというようなことを狙いのひとつとしてやっています。ロボレーブのアメリカの世界大会に参加した子で、もう中学を卒業した子なんですけど、その中には結局こういう道を選びたいということで高専に行った子とか、そういう先生がいる学校に行きたいとわざわざ金沢の泉丘に行った子とか、そういうような子もおりますので、今やっていることが少しずつ定着してさらに上を目指したいという子ども達もでてきているということは現実の姿かなと。そういう数がどんどん増えていって将来その道に進んでまた加賀市へ戻ってきて頑張ってくれる、それが市長の大きな狙いというか、思いというか、そういうものを感じているんな授業を行っているということです。間違いなく市としてここまでやっているのは全国でもまずトップクラスかなとは感じています。他、ございませんか。上半期ということでいろいろやっていただきましたが、また下半期もよろしく願います。続きまして報告第56号、オリンピック事前合宿誘致に向けたポルトガル柔道連盟との協議について中田課長お願いいたします。

- 報告第56号 オリンピック事前合宿誘致に向けたポルトガル柔道連盟との協議について
中田課長 資料に基づき説明

○山下教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。それでは続いて報告第57号、加賀温泉郷マラソン2019の参加者募集について奥村室長お願いいたします。

- 報告第57号 加賀温泉郷マラソン2019の参加者募集について
奥村室長 資料に基づき説明

○山下教育長 ちょっと時間ありませんので、もしご質問等がありましたら後ほどお願いいたします。次、その他にいきたいと思います。平成30年度加賀市各界功労者について山本課長お願いいたします。

- 平成30年度加賀市各界功労者について
山本課長 資料に基づき説明

○山下教育長 続いて錦城小学校における第49回博報賞受賞について越中谷次長お願いいたします。

- 錦城小学校における第49回博報賞受賞について
越中谷次長 資料に基づき説明

○山下教育長　この賞は大変いただくのが難しい賞でありますので、加賀市だったら三谷小の国語研究と錦城小の文化理解教育部門ということでの表彰と2つだけかなということをおもいます。続いて洋遊会スクールコンサート結果報告について宮下課長お願いいたします。

- 洋遊会スクールコンサート結果報告について
宮下課長　資料に基づき説明

○山下教育長　これについては山下教育委員にも大変ご足労を願って計画をしていただいて2年目でございます。続きましてケロン里山絵本の原画展開催について新家館長お願いいたします。

- ケロン里山絵本の原画展開催について
新家館長　資料に基づき説明

○山下教育長　元県の教育次長であります上乘先生、わざわざこちらまで来ていただいてなんとか加賀市で展示会をしたいというお話がありまして、今、市役所の玄関ホールのところに表示してありますので、もし今日の帰りでも時間がありましたら見ていただきたいなと思います。よろしくお祈りいたします。その他のその他で次回の定例会の日程について山本課長お願いいたします。

- 次回教育委員会定例会日程について
山本課長説明

○山下教育長　11月27日火曜日、13時30分からということで予定に入れておいてください。これで予定をしていた議件はすべて終了しましたが、何かありますか。よろしいですか。最後ちょっと急がせて申し訳ございませんでした。
それでは以上で第12回教育委員会定例会を閉会いたします。ご苦勞様でした。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。